

第8章 西原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西原遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、標高約 18 m の台地上に立地する。遺跡の北側約 100 m には現在、市立福岡中学校のグラウンドがあるが、かつては「滝」の地名の由来となった、段丘上から滝が落ちていたと言われる付近である。

周辺の遺跡は、武蔵野段丘面から一段低い立川段丘面にかけて滝遺跡、長宮遺跡、松山遺跡が広がる。南側約 100 m に古墳時代後期の横穴墓の福遺跡、同約 250 m に富士見台横穴墓群が位置する。

本遺跡周辺は早くから宅地化が進み、また残された部分も山林等であった。昭和 1965 年の分布調査で「中飛西原 遺物の散布地は、西に向ってゆるやかに傾斜する台地の肩部に位置し、その範囲も極めて狭いが、縄文式土器の細片（野島、加曽利 E 期）が発見できた」。以後、1985 年の試掘調査で縄文時代の集石土坑 1 基が検出されているが、1994 年と 1997 年の試掘調査で遺構、遺物は確認されていない。

西原遺跡は、2019 年 4 月現在 4 ケ所で調査が行われている。

II 西原遺跡第 4 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 11 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2017 年 11 月 20 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は道路拡幅部分に合わせて重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60cm である。

調査の結果、炉穴 1 基を確認した。遺物は出土していない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 44 図 西原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

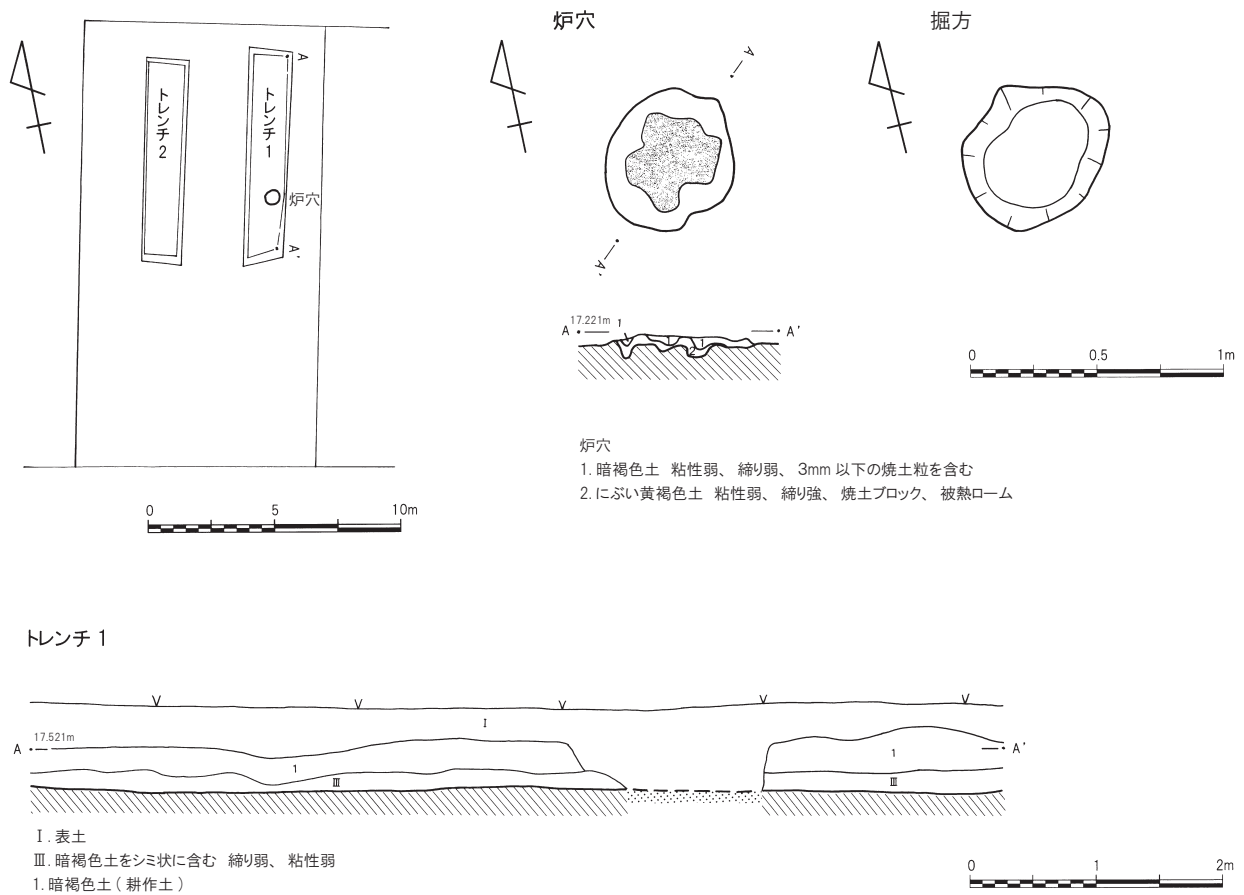
(2) 遺構と遺物

① 炉穴

調査区東側のトレンチ1で検出した。周辺には広がらず、1基単独である。規模は確認面径 59 × 51 cm、底径 35 × 33 cmでほぼ円形を呈する。出土遺物はない。

第32表 西原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	西原 1-1-37	(1985.4.25 ~ 30)	360	個人住宅	集石遺構 1	上埋Ⅷ
試掘調査 1994 試	西原 1-33 外	(1994.6.15 ~ 24)	1,738	共同住宅	遺構遺物なし	上埋 17
試掘調査 1997 試	西原 2-3-12	(1997.12.9 ~ 12)	616,34	宅地造成	遺構遺物なし	上埋 20
3	上ノ原 1-2-25・57	(2013.4.4 ~ 11)	578	分譲宅地	落とし穴、土器片	市内 18
4	西原 1-2-2 の一部	(2017.11.20)	167	個人住宅	炉穴 1、遺物なし	市内 24



第45図 西原遺跡第4地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)、炉穴・掘方 (1/30)



西原遺跡第 4 地点炉穴



西原遺跡第 4 地点炉穴掘方



西原遺跡第 4 地点トレンチ 1



西原遺跡第 4 地点トレンチ 2